

COG2025 応募内容確認書

ID	59-30-1
自治体名	沖縄県那覇市
自治体提示地域課題	防災関連
チーム名	ゆいまーるの森
アイデア名	防災ゆいまーる
チーム属性	市民：市民だけで構成されたチーム
チームメンバー数	4
代表者	矢田部 建佑
メンバー（公開）	矢田部 建佑, 金城 喜美代, 高良 実子, 瑞慶覧 りか

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

COG2025 アイデア提案書

チーム名	ゆいまーるの森
アイデア名	第2の「ゆいまーるの森」をつくる — 住民がつながり、災害時に助け合える 地域づくり —
該当する自治体名	沖縄県那覇市 (松島小校区・末吉・安謝川流域)
自治体提示の地域課題	高齢者や新規住民を含む、災害時の避難行動に不安を抱える住民が多く、個別避難計画や地域内共助の仕組みが十分に整っていないこと。

1. アイデアの全体像 (What)

1-1. 提案するアイデアのあらまし

松島小校区エリア（末吉・安謝川流域）は、台風・豪雨・土砂災害・地震など、複数の災害リスクが重なり合う地域である。

加えて、急な坂道や小規模な橋が多く、高齢者や新規住民にとっては、**避難そのものが大きな負担となる地形的特性**を抱えている。

私たちはまず、「災害時に 1km 避難するとしたら、自分は何分かかかるのか」という問いから課題を可視化した。健康な大人でも 10 分台から 18 分台まで大きな差があり、高齢者が混乱した災害下で同じ距離を移動することの困難さが浮き彫りとなった。

さらに地域を歩く中で、安謝川流域では川中に生えた樹木が豪雨時に流木となり、橋に引っかかることで氾濫を引き起こす危険があること、また坂道が多く、地震や豪雨時には避難経路そのものが使えなくなる可能性があることが分かった(写真 1・2)。



安謝川流域の川中に生えた樹木。豪雨時には流木となり、橋に引っかかることで氾濫を引き起こす危険がある。



末吉エリアに多く見られる急な坂道。高齢者や支援が必要な住民にとって、避難時の大きな負担となる。

こうした地形や環境の特性から、末吉・松島エリアは「避難が間に合わない人」が生まれやすい地域である。

そこで本提案では、災害リスクを「楽しく学び、仲間をつくる」参加型プログラムを通じて共有し、住民同士が支え合いながら避難行動を具体化する「**第2のゆいまーの森**」づくりを行う。

具体的には、

- ① 危険箇所・避難経路の理解（地域歩き＋ハザードマップ確認）
- ② 疑似共助ワークによる体験的学習
- ③ 新規住民や肢体不自由者など、災害時に支援が必要な人（Aさん）の特定
- ④ 連絡手段・移動方法・支援者・避難先を整理した個別避難計画の作成を段階的に進める。

本取組は、机上の計画ではなく、**実体験に基づく実践型モデル**である。チームには、40年

以上地域活動に関わり、78歳で防災士資格を取得し、防災運動会などの実践を重ねてきたメンバーが参画している。

また代表者自身も、東日本大震災および能登半島地震における災害ボランティア経験を有し、被災地で目の当たりにした「避難の遅れ」や「孤立」を地域防災の仕組みづくりに還元してきた。これらの経験と地域資源を生かし、住民同士が支え合い、災害時にも自走できる関係性を育てることで、地域内に「第2のゆいまーるの森」を広げていくことを目指す。

1-2. 提案するアイデアの内容 (5W1H)

What (何を)	地域歩き・疑似共助体験・Aさん特定・個別避難計画作成を組み合わせ、住民参加型の防災・共助育成プログラム。
Who (誰が)	ゆいまーるの森チーム(企画・運営)＋自治会／民生委員／学校・PTA／福祉・医療／地域拠点(松島老人福祉センター等)。
Who (誰に)	松島小校区エリアの住民(高齢者・独居・高齢者のみ世帯・要支援/要介護等)＋新規住民＋支え手候補(地域キーパーソン＝Bさん)。
When (いつ)	年度内に4回の連続イベントとして実施。
Where (どこで)	末吉・松島エリア(安謝川流域)／地域拠点(老人福祉センター等)／避難所・避難経路。
How (どのように)	『歩く・測る・話す・作る』参加型で実施し、1年目に土台(つながり＋計画)を作り、つながりを育てながら2年日以降に横展開して“第2の森”(キーパーソンとなるBさんたち)を増やす。

【図表①】 末吉地域（安謝川流域）ハザードマップ（避難経路の確認）

末吉地域(安謝川流域)ハザードマップ～もしもの時の避難経路～



2. アイデアの理由 (Why)

2-1. 理由のポイント (要約)

- ・ 複数災害リスクが重なる地域特性
- ・ 高齢者割合が高く、避難困難者が多い
- ・ 行政だけでは対応しきれない「近隣共助」の必要性

2-2. 根拠と裏付け (データ・事例)

(1) 地域リスクの可視化：ハザードマップ（安謝川流域）により、浸水想定や避難経路上のボトルネック（橋・低地等）を確認し、机上で終わらない計画づくりにつなげる。

(2) 人口・属性の示唆：松島エリアの高齢者構成（国勢調査ベースの“推定”）を用いて、対象設定の妥当性を示す。

(3) 当事者視点：Aさん（新規住民／肢体不自由等）は『どこが危険か分からない』前提があり、情報提供に加え“同行・支援設計”が必要。

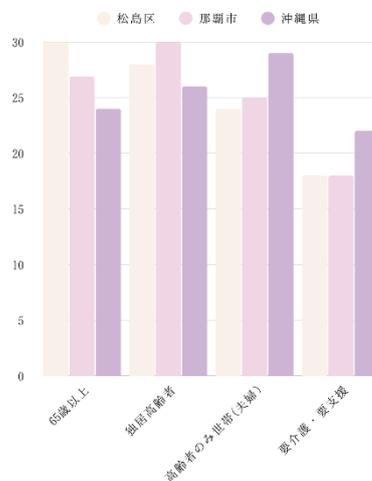
【図表①】松島エリア（那覇市）高齢者構成（推定値・国勢調査ベース）

指標	松島区（推定）	那覇市	沖縄県
65歳以上割合（%）	30	27	24
独居高齢者割合（%）	28	30	26
高齢者のみ世帯（夫婦）割合（%）	24	25	29
要介護・要支援割合（%）	18	18	22

【図表②】高齢者構成（推定）棒グラフ（国勢調査ベース）

この地域の今

松島エリア（那覇市）高齢者構成 “推定” 数値割合（国勢調査ベース）



3. 実現までの流れ (How)

3-1. 実現する主体

- ・ゆいまーるの森チーム
- ・地域団体(自治会／民生委員／学校・PTA／福祉・医療／老人福祉センター等)。

3-2. 必要な資源と調達方法

【ヒト】地域ファシリ (運営)、見守り・福祉知見、若者ボランティア、記録/デザイン担当。

【モノ】ハザードマップ、個別避難計画シート、筆記具、掲示物、簡易防災グッズ教材。

【カネ】印刷費・会場費・保険・備品 (調達：自治体助成、地域企業協賛、寄付、既存防災予算の活用)。

3-3. 実現までのプロセスと時間軸

ステップ	主な取り組み内容	主なアウトプット
STEP 0	関係者調整・地域情報整理	連携体制一覧、対象エリア整理
STEP 1	地域歩き・ハザード確認	危険箇所マップ／避難ルート案
STEP 2	疑似共助ワーク(体験型)	支援対象の把握 (同意含む) / 役割案
STEP 3	Aさんの特定・分類	個別避難計画 (世帯別) + 更新ルール
STEP 4	個別避難計画作成	改善点整理／第2の森づくり計画
STEP 5	振り返り・更新	計画更新ルール、改善点整理
STEP 6	2年目以降の展開	Bさんの拡大、横展開モデル

3-4. 想定リスクと対応策

- ・参加者が固定化する：入口（老人福祉センター等）を複数化し、役割の小分けで参加ハードルを下げる。
- ・個別避難計画が更新されない：年1回の更新会＋台風期前のチェックをルール化。
- ・個人情報配慮：同意取得・閲覧範囲の明確化・匿名化（共有版）の運用。

おわりに — ゆいまーの森が目指す防災のかたち

私たちが目指している防災は、

「怖さを伝える防災」でも、「備えを強制する防災」でもありません。

地域を歩き、語り合い、体験し、

顔の見える関係を少しずつ育てていく中で、

自然と「助け合い」が生まれていく防災です。

ゆいまーの森の活動では、

参加者が「やらされている」のではなく、

「気づいたら誰かのことを考えていた」

そんな瞬間が何度も生まれてきました。

防災は、特別な人だけが担うものではありません。

高齢者も、新しく地域に来た人も、

それぞれの立場で関われる余白があるからこそ、

地域の力になります。

私たちは、

一度つくって終わる計画ではなく、

人と人のつながりが循環し続ける

『第2のゆいまーの森』を地域に根づかせたいと考えています。

災害が起きたときだけでなく、

何も起きていない日常の中で育まれる関係性こそが、

命を守る一番の備えになると信じて。

この取り組みが、

那覇市から、そして他の地域へと広がっていくことを目指します。